

第2章 市民文化系施設の目指すべき姿

市民会館と福社会館は同一敷地内に隣接して配置されています。市民会館は、市の産業・経済・文化・教養の向上と市民の福祉増進を目指した施設で、他の市民文化施設に対して規模が大きく、大きな催しものや専門的な機材・設備を必要とする活動に対応しており、市の中心的な施設となっています。

福社会館は、市民の福祉増進と生活向上を目指した施設で、文化・学習活動の場として利用されています。また、福社会館は中央公民館及び取手支所を複合化しており、市民会館とともに市民の総合的な文化・教育・学習等の社会活動の拠点と行政サービスの窓口機能を併せ持っています。

市民会館及び福社会館は、文化芸術、社会教育、生涯学習、地域活動の拠点として、今後も活用されていくものであり、共生社会の実現に向け、子供から大人まで、障害の有無や言語・文化の違いなどにかかわらず、市民による多様な活動が行われる施設であることが求められています。

公民館は、地域住民の交流の場であり、地域の生涯学習活動の拠点として、各世代に合わせた様々な講座を実施するとともに、サークルやグループによる活発な活動が行われ、地域の人たちがふれあいを深め、地域の暮らしと文化を高め、豊かな人間性を培う多様な学習機会を提供しています。地域に根差した施設であることから、地域の拠点として、地域住民の日常的な生活圏への施設配置が重要であり、各地域で機能を存続させる必要があります。

一方で、多くの公民館が、設置から30年以上経過し、施設の老朽化が進み、耐震補強工事の対応が未実施の施設があるなど、施設の維持管理に課題があります。また、藤代地区が小学校区に1公民館、取手地区が中学校区に1公民館となっており、利用状況も地域によって偏りがあり、施設規模の見直しや再配置による全体の最適化などの対応が求められます。

ゆうあいプラザは、働く婦人及び勤労者家庭の主婦並びに勤労青少年の福祉の増進を目的として設置され、利用者の資格も限定されておりましたが、現在は市内在住在勤者に幅広く利用されており、建物の機能の面においても公民館と類似した施設であることから、公民館全体の最適化と併せて検討することが求められています。

これらを踏まえて、以下のとおり市民文化系施設の目指すべき姿となる(1)から(4)を設定します。

(1) 安全安心な施設

建築から期間が経過している施設であることから、経年劣化が進む部位の機能回復など、老朽化する施設に適切な保全を行うことで、地域住民にとって安全安心な施設を目指します。

(2) 地域拠点としての施設

地域活動を支える施設として、多機能化による利便性向上や障害の有無、年齢、性別等にかかわらず、誰もが利用しやすい環境を目指します。

社会教育施設としての良好な生涯学習環境の維持・向上を図りながら、学習や運動など多様な市民活動のニーズに対応し、多くの市民に利活用され、集まることにより交流が生まれる地域のコミュニティ拠点としての施設を目指します。

(3) 持続可能な施設

市民会館・福社会館については、運営方法の見直し等により維持管理コストの縮減を図るほか、魅力的な事業の実施による施設の利用を促進させるなど、施設を持続的に維持していくために必要な財源の確保を目指します。

設備の更新、改修時においては、省エネルギー性能の優れた設備導入などにより、環境負荷の低減に配慮した、持続可能な施設を目指します。

(4) 環境変化に対応した施設

長寿命化や建替えを検討する際は、保全コストと施設の効用のバランスを考慮し、他の施設などとの複合化についても検討し、環境の変化に対応した施設を目指します。

参考として、「取手市公共施設等総合管理計画」(平成28年(2016)7月策定)に掲載されている市民文化系施設の課題の内、未対応の課題と、改善の方向性は以下のとおりです。

未対応の課題

市民会館・福祉会館

- ・市民会館は、地区公民館に対しても規模が大きく、市民文化の中心として、市民ニーズに合致する魅力的な大きな催しものを開催することが求められています。
- ・福祉会館はより多目的な運用、魅力的な自主事業などにより、地区公民館よりも幅広く利用可能な点を有効に活用した事業展開の企画の実施が求められています。
- ・市民会館・福祉会館を今後も全市的な施設として維持していくためには、より効率的な管理が必要になります。

公民館・ゆうあいプラザ

- ・耐震補強工事の対応が未実施の施設は、実施する必要があります。
- ・築30年以上を経過している施設が12施設あり、老朽化対策工事が必要と考えられます。
- ・取手地区では運営経費の削減、藤代地区では稼働率の向上が求められています。
- ・藤代公民館においては規模の大きさを生かし、他の利用効率の低い施設との集約や多目的な活用が求められています。
- ・同一敷地内にある白山公民館とゆうあいプラザは、会議室などの機能が重複しており、効率的な運用や施設の更なる有効活用の検討が求められています。

改善の方向性

市民会館・福社会館

- ・市民会館は市のシンボリックな施設として、また福社会館は稼働率の向上を目指した事業強化に努める施設として、魅力的な事業の実施による施設の利用促進、並びに長寿命化に向けた保全への取組みを進めていきます。
- ・施設の老朽化対策工事時には、バリアフリー化や環境に配慮した仕様を検討していきます。
- ・共に大規模施設であるため改修コストを含めた総合的な検証と将来計画の検討をしていきます。

公民館・ゆうあいプラザ

- ・耐震補強工事と併せて、老朽化対策工事が必要な施設が多くあることから、今後の利用状況を踏まえ再配置を検討します。また、施設の更新や老朽化対策工事はバリアフリー化や環境に配慮した仕様を検討していきます。
- ・地区公民館は、地域の重要な拠点となる施設であることから、公民館のあり方も含め、地域に等しく配置する考え方や、施設の機能や性質、施設間距離及び交通利便性を考慮し、サービスの向上と稼働率の向上、管理・運営面での外部委託や指定管理者制度導入を検討していきます。
- ・利用状況を踏まえ、重複する機能を有する施設の集約化や複合化により、必要な機能の検討と運営面の検討を行います。